

# 「ひとりで学べる RC 造建築物の構造計算演習帳【許容応力度計算編】」

## 正誤表（第2版1刷）

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正いたします。

今後も追加される可能性がありますので最新の正誤表については、(一財)日本建築センターホームページ (<http://www.bcj.or.jp/>) からご確認下さい。

H26/7/23

該当箇所		誤	正								
頁	行										
114	ポイント②	あばら筋間隔 $x$ は、 $\phi 9$ 又は $D10$ を用いる場合、 $x \leq \frac{D}{2}$ かつ、 $x \leq 250(\text{mm})$ とします。その他の鉄筋では、 $x \leq \frac{D}{2}$ かつ、 $x \leq 450(\text{mm})$ です。	あばら筋間隔 $x$ は、 $x \leq \frac{D}{2}$ かつ、 $x \leq 250(\text{mm})$ とします。								
135	ポイント②	帯筋間隔は、 $9\phi$ 又は $D10$ では $100(\text{mm})$ 以下とする。	帯筋間隔は、 $100(\text{mm})$ 以下とする。								
186	下から3行目	・・・仕上げ荷重との和 ( $\text{kN/m}^3$ ) ・・・	・・・仕上げ荷重との和 ( $\text{kN/m}^2$ ) ・・・								
190	④の3行目	$w_p = 3,180(\text{N/m}^2)$ となります。	$w_p = 3,180(\text{N/m}^2) = 3.18(\text{kN/m}^2)$ となります。								
190	下から2行目	$M_{x1} = \dots = -\frac{1}{12} \times 3,180 \times \dots$	$M_{x1} = \dots = -\frac{1}{12} \times 5,337 \times \dots$								
192	図 9.3-5	<p>The diagram shows a cross-section of a slab with various load values and dimensions. A table on the left lists the following values:</p> <table border="1"> <tr> <td><math>w(\text{N/m}^2)</math></td> <td>6,300</td> </tr> <tr> <td><math>w_p(\text{N/m}^2)</math></td> <td>3,180</td> </tr> <tr> <td><math>w_x(\text{N/m}^2)</math></td> <td>5,337</td> </tr> <tr> <td><math>t, \dots \rightarrow t(\text{mm})</math></td> <td>110 → 130 (OK)</td> </tr> </table> <p>Formulas and relationships shown in the diagram include:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Eq. 9.3-3: <math>6,300</math></li> <li>Eq. 9.3-1: <math>5,337</math></li> <li>Calculation: <math>6,300 - 24 \times 10^3 \times 130 / 10^3</math></li> <li>Correction box: <math>W_p = 3,180(\text{N/m}^2) = 3.18(\text{kN/m}^2)</math></li> </ul>		$w(\text{N/m}^2)$	6,300	$w_p(\text{N/m}^2)$	3,180	$w_x(\text{N/m}^2)$	5,337	$t, \dots \rightarrow t(\text{mm})$	110 → 130 (OK)
$w(\text{N/m}^2)$	6,300										
$w_p(\text{N/m}^2)$	3,180										
$w_x(\text{N/m}^2)$	5,337										
$t, \dots \rightarrow t(\text{mm})$	110 → 130 (OK)										